

投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 佐々木良作 (都市河川係長 糟谷昌俊)	内線	4408 (4417)
------	-------	---------------------	-------------------------------	----	----------------

事業種目	河川	事業採択年度	S52		現 計 画	再評価時点
事業名	高潮対策事業 (二)千種川水系千種川	着工年度	S52	総事業費	38億円	38億円
		再評価年度	H10	内用地補償費	3億円	3億円
事業区間	赤穂市中広			完成予定年度	H25	-
所在地	赤穂市			進 捗 率 (内用補進捗率)	66%(75%)	63%(43%)
事業の目的				事業内容		
<p>播磨灘沿岸部では、昭和39年9月台風20号、昭和40年9月台風23号で高潮による浸水被害に見舞われ、当該河川においては昭和51年9月台風（浸水面積1,840ha、浸水家屋11,476戸）等、過去から大規模な浸水被害に見舞われてきた。</p> <p>このため、当該地域の浸水被害を防止するため、高潮被害を防御するとともに、治水安全度1/23を目標に改修を行い、地域住民の安全・安心な生活環境を確保するものである。</p>				計画流量	Q = 2,800m ³ /s (治水安全度1/23：中広地点)	
				実施内容	L = 2,150m W = 250m 防潮堤、掘削、護岸等	
進捗状況	<p>昭和52年度に着手し、これまでに、築堤、護岸の整備を行い、河口付近を残し防潮堤は完了し、高潮と洪水に対する安全性が向上している。</p> <p>再評価時点（H10）から現在までに、防潮堤背面の築堤に必要な用地買収を行ってきた。今後は、残る河口部付近の防潮堤、築堤を行い、事業の重点化と効率的な事業執行に努め、平成25年度に事業を完了させる予定である。</p> <p>また、河川整備計画を現在策定中である。</p>					
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	・赤穂市街地、病院等を浸水被害から守るため、防潮堤、掘削、護岸等の河川改修工事を実施しており、残区間の治水安全度を早期に向上させるため、継続的な整備を実施する必要がある。					
(2)有効性・効率性	<p>・ B / C = 3 . 1</p> <p>・河口部付近の防潮堤整備は地元協力を得ており、効率的な事業進捗が図れる。</p> <p>・河川整備計画策定のための流域懇談会を開催しており、事業に対する地域住民の意識が高い。</p>					
(3)環境適合性	・防潮堤については捨石等、水生生物等の生息環境の形成について検討する。					
(4)優先性	・残事業に河口部付近の防潮堤工事を残しており、赤穂市街地を高潮による浸水被害から防御する当該事業の優先性は高い。					
再々評価の結果	事業継続	左の理由	上記理由により、事業継続が妥当である。			